

☆ふれあい食事サービス事業

ボランティア情報交換会☆

長崎市社協では、小地域福祉活動の一環として「ふれあい食事サービス事業」の推進を図っています。外出等の機会が少なく、閉じこもりがちな一人暮らし高齢者を対象に、食事会を通して孤独感の解消や参加者同士の交流の促進を図ることが目的です。平成24年12月3日、ふれあい食事サービス事業に関わる支部関係者を対象に、標記情報交換会を開催し、23支部52名の方々に参加していただきました。当日は、「レクリエーション考案の達人」こと城山支部の古賀事務局長を講師に招き、ペットボトルやピンポン玉、湯のみやしやもじなど、身近な物を活用して誰にでも易しく簡単にできるレクリエーションを紹介しました。実践で



情報交換会の様子

一人暮らしで外出する機会が少ない、人とふれあうことが少ないという高齢者の方々は、美味しい食事を囲み近所の方々と楽しく過ごせる時間を心待ちにされているようです。悩みや課題を抱えながら、このように地域の高齢者の方々のためにご尽力い

は、皆さん思っていた以上に大苦戦……。だんだんと真剣な表情になり、いつの間にか会場も大いに盛り上がりました。また、情報交換会では日頃の活動に関する悩みや課題について話し合っていたいただき、左図のように様々な意見が出されました。



レクリエーションの様子：パタパタ！

- ・献立を立てるのに苦労している
- ・年々参加者が減少している
- ・個人情報の取り扱いに苦労している
- ・ボランティアが高齢化してきている
- ・次の担い手がいない
- ・レクリエーションに苦慮している

ただ、感謝することに対し深く感謝すると共に、事業のより良い運営と推進を図るために「地域の相談役」として私たち社協もより一層の支援に努めていきたいと思っています。

為石地区防災まちづくり



この春、為石地区では防災連絡協議会を立ち上げて、「防災を通じたまちづくり」に向けて動き出しました。為石地区では、平成24年2月の福祉のまちづくりで「わがまち座談会」で出された「災害が起きた時の避難場所がわからない」「防災マップやその体制がない」を為石地区住民の課題と受けとめて、昨年9月に近隣地区のみなさんと防災講演会を聞

きた。11月には、大型の台風接近を想定して住民がどう動くかを地図上で訓練してきました。平成25年2月3日の良く晴れた日曜日、為石地区の自治会・民生児童員など60名が為石地区公民館に集まりました。長崎市の防災担当者のアドバイスを受けたあと、6つの班に分かれて自分たちの住む為石地区の「危険箇所」探しに出発しました。椿が丘地区では、升本自治会長を中心に10名が参加しました。この地区は、35年前に山林を切り開いて造成されたニュータウンなので、「ひよつとしたら、家屋が浸水して一人暮らしのお年寄りは孤立するのでは」と意識しながら歩いてみると、落ち葉が詰まった側溝を見付け、さっそく地図で位置を確かめて写真撮影しました。大雨の時、この道が使えなくなるからです。水路が集まる公園近くの道路では、「この道は、災害時の避難ルートには向かない。」とみなさんで確かめる場面もありました。この地区の避難

所になっている椿が丘公民館に着くと、「ここは最終的な避難所としては使えない。」「3日間が限界でしょう。その後には、行政センターに行くしかないね。」と気づきを付箋に書き留めて白地図に貼り整理しました。升本自治会長は「全ての世帯が避難所に入るのは難しく、一人暮らしのお年寄りをどう避難誘導するのか？はつきりしない課題に少しかきつかけに



大浜さるく

開催

平成25年1月26日、福田にある大浜地区において「大浜さるく」が開催されました。この「大浜さるく」は、福田小学校区において住民座談会が開催された際に、「地域に対する思いや、住民同士の関わりが薄くなっているのではないだろうか？」という声にに対し、「それじゃあ、地域の子どもから高齢者まで、お互いの顔を知り、交流できる機会を作るために、子どもと高齢者で、町内オリエンテーリングを行ってはどうか？」というアイデアから、異世代間交流活動の一環として、大浜自治会を中心に準備が進められてきました。当日は、大浜公民館に集合し、コースの確認や注意事項の説明が終わると、子どもと保護者・高齢者混合でチームを作り、10チームが地図を片手に、地域に10ヶ所設けたチェックポイントを探しながら、ゴールを目指しました。全員がいが振る舞われ、最後に全員が

参加賞を受け取り、解散となりました。初めての試みにもかかわらず、約70名の地域の方々の参加があり、次回は、さらに多くの方に参加してもらい、「大浜さるく」を定着させていきたいとのことでした。



白木自治会防災マップづくり

去る2月17日に愛宕の白木自治会で、地域防災マップを作りました。当日は、白木自治会の役員と、子ども会の子どもたちと、その保護者が参加して、いっしょに作業を行いました。白木自治会は斜面地区で、大雨が降った時などは、子どもたちの通学路に水があふれて危険なところもある。そこで、子どもたちにも地域を知ってもらおうということに、今回のマップづくりを一緒にすることになりました。参加者は、いくつかの班に分かれて、白木自治会のエリアの白地図に、「大雨が降った時に、危ない所はどこにあるのか」「避難する所はどこにあるのか」といったことを色書きしました。参加した子供たちは、「そういえば、この道は、溝のフタは、雨が降ったら滑るよ」「この家の前は道は、坂が急で雨が降った時は通

れないね」などと言いがら、日ごろ自分たちが通っている通学路や、遊んでいる路地を思い出して、思い思いに地図に書き込んでいきました。そうした子どもたちの話を聞いた保護者の方からも、「この家からだと、避難場所の学校まで遠いねえ」「避難するタイミングって、どこで判断したらいいんだろうね？」「などという声があがり、当初は戸惑いながら参加していた方たちも、「なにかあった時に、避難する道を家族で確認したい」という意見が出た。意見が出たことで、親子で地域の防災を考え、良い機会になったよ

